日常生活から考える防災

台風や地震などの自然災害に対して防災対策をしていますか？不安に思ってはいるものの、何をどれくらい備えればいいのかわからず、なかなか手が付けられない人もいるのでは。普段の生活の中で、災害の備えをすることに役立つ本をご紹介します。

NEW

FRaU MOOK（2023 年）／講談社

FRaU SDGs MOOK DISASTER PREVENTION：まいにちの、防災手帖。
講談社／2023.8
「防災」というと、何か特別なことをしなくてはならないと思うかもしれないけれど、日々の生活の中で意識を持って備えることで、安心感を得ることができます。非常時に持ち出したいもののリストや防災テクニック、ペットとの避難についてなど、今の暮らしを見つめなおし、日常生活ですぐにできる備えを紹介。

NEW

今日から始める生活防災
：大災害から家族と住まいを守る最新の危機管理術
和田隆昌著／ワニ･プラス／2023.9

イラスト・図解で分かる災害を生き延びる!都市型サバイバル
川口拓監修／イースト･プレス／2022.5

MIWビデオサロン上映予定

MIWでは 14:30～、18:30～に、所蔵する映像作品を上映するビデオサロンを開催します。
上映後には、感想を語りあう交流会を開きます。事前申込みは不要です。ぜひ、ご参加ください。

8 月 16 日（金）上映作品（予定）「父と暮せば」
監督／黒木和雄　2004 年／99 分／日本
昭和 23 年、広島。3 年前の原爆で父･竹造を亡くした美津江は、自分だけが生き残ったことに負い目を感じながら生きていた。勤務先の図書館で知り合った青年･木下と惹かれ合いながらも、幸せになることへの罪悪感から一歩を踏み出すことができない。そんな美津江の前に幽霊となって姿を現した竹造は、ふたりの恋を成就させるため、どうにか娘の心を開かせようとする。

© 2004「父と暮せば」パートナーズ　DVD／バンダイナムコフィルムワークス

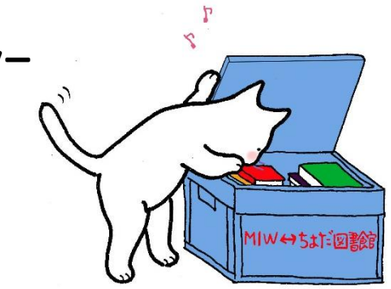
千代田区男女共同参画センターMIW（ミュウ）
〒102-8688　千代田区九段南 1-2-1　千代田区役所 10 階
電話：03-5211-8845　FAX：03-5211-8846
Eメール：miw@city.chiyoda.tokyo.jp　https://miw.city.chiyoda.lg.jp/
Instagram：chiyoda.miw　Facebook：@chiyoda.miw
開館時間／月～金　9:00～21:00　土　9:00～17:00　日曜･祝日休館

ホームページ　メルマガ登録

ライブラリニュース みゅう

2024 年7月 102号

千代田区
男女共同参画センター
MIW（ミュウ）



MIWマスコットキャラクター
みゅうじろう

子どもの人権について考える

子どもの人権問題には、「いじめ」や体罰、不登校や親による虐待などさまざまな問題が含まれています。それらは周囲の目につきにくいところで発生していたり、被害者である子ども自身がその被害を周りに伝えられていないことがあります。子どもの人権を知り、守るために、活用してほしい本をご紹介します。

NEW

子どもの権利をまもるスクールロイヤー：子ども・保護者・教職員とつくる安心できる学校
松原信継、間宮静香、伊藤健治編著／風間書房
2022.5

スクールロイヤーとは、いじめや不登校のほか、保護者対応や体罰など、学校で発生する様々な問題について、法的な観点で助言を行う弁護士。子どもが安心して学び、育つ環境を実現するためにはどうしたらよいか、スクールロイヤーの役割と活動を提示する。

NEW

子どもの「じんけん」まるわかり
汐見稔幸、新保庄三、野澤祥子著
ぎょうせい
2021.10

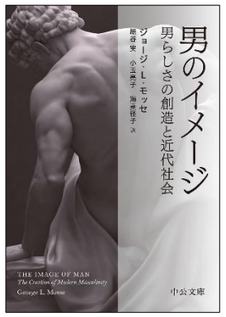
子どもはひとりの人間として権利を持ち、子ども一人ひとりの人格を尊重し、個性を大切にする育児･保育が求められる。子どもの「権利」とは何か、その基本的な知識や意義、子どもの権利を尊重する保育の大切さをわかりやすく解説。

きみの人生はきみのもの：子どもが知っておきたい「権利」の話
谷口真由美、荻上チキ著／NHK 出版／2023.1

家族に「イヤなこと」をされているあなたにお願い
：今すぐこの本を持って保健室に行こう
獅城けい著／高文研／2022.8

きみはどう考える?人権ってなんだろう 3
：性別や国籍で差別しない・されない みとめよう、それぞれの違い
喜多明人監修／汐文社／2021.3

男性学



男のイメージ：男らしさの創造と近代社会

ジョージ・L.モッセ著
中央公論新社
2024.3

【MIWスタッフレコメンド】
「男らしさ」という市民的価値観は、同時に「男らしくない」存在を強く否定することで誕生・強化される。屈強な兵士像、ファシズムの歴史、同性愛者への猛烈な差別など、18 世紀末～20 世紀前半、近代ブルジョワ社会形成以降の欧米諸国で誕生した「男らしさ」というシンボルを問う歴史的名著。今回の文庫化を機に手に取ってもらいたい。

男が男を解放するために

杉田俊介著／P ヴァイン／2023.10
「男であること」や「男らしさ」に縛られ、自分が嫌になり、人生に絶望する。こうした状況から解放されるにはどうすればよいのか。「弱者男性」や「非モテ」といったよく見かけられる言葉について筆者の体験談を基に考察しつつ、「男の弱さ」とは何なのか、どうやって向き合えばよいのか考える。

なぜ東大は男だらけなのか

矢口祐人著／集英社／2024.2
東京大学の学部学生の男女比は約 8 対 2、世界の一流大学の中でも極めて偏っている。なぜ東大に女性が少ないのか、現役の東大副学長である著者が、その歴史的背景や現状を、海外の事例との比較なども交えて論じ、東大だけでなく、日本社会の問題として捉え、あるべき姿を提言する。

LGBTQ

いちばんやさしいアロマンティックやアセクシュアルのこと

三宅大二郎、今徳はる香、神林麻衣、中村健著
明石書店
2024.4

【MIWスタッフレコメンド】
多様な性のあり方のうち、他の人に恋愛感情を抱かない「アロマンティック」と、他の人に性愛感情を抱かない「アセクシュアル」。恋愛をすることや、性欲を持つことは本当に「当たり前」のことだと言えるのだろうか。当事者やその知り合いの方に向けたQ＆A や当事者の声からそれぞれについてやさしく、分かりやすく学べる一冊。

トランスジェンダーQ&A：素朴な疑問が浮かんだら

高井ゆと里、周司あきら著／青弓社／2024.5
スポーツやトイレなどの問題でよくニュースで耳にする言葉「トランスジェンダー」。一度でも「気になるなぁ」と思ったら、ぜひこの本を読んでみてもらいたい。「トランスジェンダーって、どんな人たちを指すの？」といった基礎知識から、「聞きにくいけれど、気になる」といった疑問まで、Q&A 形式で答えている。

ノンバイナリースタイルブック

山内尚著／柏書房／ 2024.4
単に「男」や「女」で分けられない、ひとつの性の捉え方、ノンバイナリー。当事者である筆者が日々のファッションコーディネートを日記と交えて紹介しつつ、服との向き合い方、ノンバイナリーとしての境遇や理解者の存在を自身の経験から描く。

子育て

「ふつう」の子育てがしんどい：「子育て」を「孤育て」にしない社会へ

石田光規編著
晃洋書房
2023.11

【MIWスタッフレコメンド】
トラブルの連続が当たり前な子育てで求められる「ふつう」のハードルの高さに苦しみ、孤独感に苛まれて、社会から孤立してしまう親を救う取り組みを紹介。自己肯定感を高められる居場所づくりに取り組む NPO 法人「こまちぷらす」や、行政と協働で地域ネットワークづくりをすすめる中間支援団体「まつどでつながるプロジェクト」を事例に、「子育て」を「孤育て」にしない社会のありかたを考える。

男の子をダメな大人にしないために、親のぼくができること：「男らしさ」から自由になる子育て

アーロン・グーヴェイア著／平凡社／2024.2
過剰な男らしさへのこだわりが、性差別につながったり、男性自身を苦しめたりする「有害な男らしさ」とはどんなものか。「有害な男らしさ」に縛られずに子どもを育てるために、男の子を持つ親にも、かつて男の子だった大人にも読んでもらいたい。

やってよかった育児パパ：日本人のパパがスウェーデンでたどり着いた男女平等教育

谷沢英夫著／新評論／2023.4
男女平等の意識が根付くスウェーデンで長く育児をしてきた著者が、父親の家事育児への参加により、男女平等の価値観を形成する子育てのヒントをくれる。

ケア

わたしが誰かわからない：ヤングケアラーを探す旅

中村佑子著
医学書院
2023.11

【MIWスタッフレコメンド】
この数年、認知され始めた「ヤングケアラー」。しかし、自身の経験をそう呼んでいいか分からず、寧ろその単語から取りこぼされていく感覚を語る著者。介護を必要とする家族との関係に悩みながら、時に愛しもする複雑な心の揺れを、「ヤングケアラー」という単語として意味が固定されてしまう前の「物語」として紡ぐ。前作『マザリング』と合わせて読みたい一冊。

まちで生きる、まちが変わる：つくば自立生活センターほにゃらの挑戦

柴田大輔著／夕書房／2024.2
障がい者自立支援で先進的な取り組みをしていることで知られるつくば市。その起点になった「つくば自立生活センターほにゃら」の設立経緯や現在までの活動を、当事者のインタビューや写真で紹介する。

老いの地平線：91 歳自信をもってボケてます

樋口恵子著／主婦の友社／2023.8
「老いても老いても、果てがない。何歳になっても老いは続く」と言う著者が、自らの老いを実況中継。脳科学者から「脳に良いことばかり！」と褒められたという日常の写真やエッセイが、老いることへの不安を軽くしてくれるかもしれません。